（８）小学校外国語活動研究会

会　長　太宰　三和（東山小）
副会長　山本　博一（中村西中）
事務局　松田　未恵（具同小）

１．研究主題「自分の考えや気持ちなどを伝え合うコミュニケーション能力を養う授業づくり」

２．研究経過

実施年月日	研究のあらまし	会場	備考
令和元年 5月8日（水）	四万十市教育研究会　組織総会 内容：役員選出、研究主題設定、年間計画	中村南小	24名
8月20日（火）	四万十市教育研究会　夏季研修会 内容：簡単に使えるクラスルームイングリッシュ講座 研究大会に向けての教材研究・指導案検討 第3学年「What do you like?」 授業者　野村　拓子教諭（中筋小） 講話「新学習指導要領における授業の作り方や評価について」 講師　松本　桂　指導主事（西部教育事務所）	東山小	19名
10月2日（水）	四万十市教育研究大会 内容：授業研究・研究協議 第3学年「What do you like?」 授業者　野村　拓子教諭（中筋小） 助言者　間　留美　指導主事（西部教育事務所） 講話「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方とは」 講師　間　留美　指導主事（西部教育事務所）	中筋小	24名

３．夏季研修会

（１）　簡単に使えるクラスルームイングリッシュ講座

①　授業の中で困っていることや使いたかったけどとっさに使えなかったクラスルームイングリッシュ等を共有。

②　中学校教諭を中心にクラスルームイングリッシュに挑戦。

③　習ったクラスルームイングリッシュを使って先生役、教師役になりロールプレイを行う。

（２）　教材研究・指導案検討　第3学年「What do you like?」　中筋小　野村　拓子教諭

①　単元ゴール・本時の授業について

・2学期に学習する「I like blue」「What do you like?」「This is for you」の3つのユニットを1つのまとまりとして捉え、最終ゴールを6年生へのありがとうカード作りとして単元計画を作り授業提案を行っていきたいと考えている。

・少人数の学級なので公開授業で参観者の先生方の力をかりていつもはできないコミュニケーションの活動を設定したい。そのため、参観者の授業参加をお願いしたい。

②　指導案についての意見交流

・単元を見通した取り組みは大変良いと思う。

・参観者が参加することはよいと思うが、本時の活動内容だと会話の内容が少ないように感じる。

質問するカテゴリーを増やす設定を行う方がよいのではないだろうか。
・単元構成は大事である。目標・評価基準等を再度見直し活動を仕組んでいく必要があるのではないだろうか。

４．令和元年度四万十市教育研究大会

（１）授業者より
・児童の様子を見ると自信に満ちた顔つきになっていたので、達成感があったのではないかと考える。
・児童はこの学習が始まってから様々な場面で習った英語を使おうとする場面が見られるようになってきた。日々の積み重ねが大事だということを本時の授業の児童の姿から学んだ。
・教師のクラスルームイングリッシュの使用率が少なかった。

（２）参観者より
〇視点１「児童が自ら考え、活動しようとしていたか。」
・児童は話す相手を選んで話しかけていた。
・友達の意見もよく聞いて自分の活動に取り入れていた。
・ビンゴカードを選ばせる活動を仕組んでいることがよかった。(自分の今持っている力を考えてカードを選ぶことができた)
・たくさんの先生方とコミュニケーションがとれる時間があったため、表現に慣れ親しむことはできた。
・ビンゴゲームの活動はよかったが、児童が本当に聞きたい活動になっていたか。ビンゴゲームの活動の後に自分が本当に質問したいことを先生方に聞きに行く活動を設定してもよかったのではないか。
・中間評価では、教師の話の前にコミュニケーションポイント等ができている児童をモデルにし、みんなで考える時間を設定したほうがよかったのではないか。

〇視点２「どのような活動を仕組むと児童のコミュニケーション能力を育成することができるのか。」
・十分な練習が児童の自信になり、コミュニケーション能力の育成につながるのではないだろうか。
・中間評価の持ち方がコミュニケーション能力を高めるために大事になってくる。児童にどんな力をつけたいのか教師が視点をしっかり持っておく必要がある。よいモデルを示し児童が自ら気付くよう仕組んでいく。
・ALT とのコミュニケーションの場を増やす。
・児童が聞きたい・知りたいと思う活動の設定をする。
・少人数の学年や学校の場合は異学年で交流を持つのもコミュニケーションを高めるための方法ではないだろうか。

（３）助言者より（西部教育事務所　間　留美　指導主事）
・2 学期のユニットを見通し単元構成を考え、児童に力をつけていく取り組みになっている。
・ビンゴカードを児童自身が選ぶことができていた。自己決定力を意識した授業づくりになっていた。
・本時は慣れ親しみの学習だったので、6 人の児童全員が慣れ親しむことができていた。
・さらに単元ゴール「6 年生にありがとうカードを作る」にせまるためには、活動をもう一つ仕組むとよかったのではないか。(活動の質を上げる取り組みを考える。)
・中間評価では、質問した先生方にアドバイスしてもらってよかったことはないか等問いかけ、表現のステップアップを行うことも大切だと思う。
・中学年では、あたり前にコミュニケーションポイント（アイコンタクト・クリアボイス・スマイル）ができるようにしてあげることが大事である。(学習の土台作り)

<Unit5・Unit6・Unit7 の学習を行ったゴールとして６年生に作ったありがとうカード >

５．今年度の成果（○）と課題（●）

○今年度は公開授業が行われ、研究協議においても今後の取り組みに活かせる内容となった。

○公開授業では ALT との役割分担の在り方や ALT のクラスルームイングリッシュが参考になった。

○夏季研修では中学校の先生方を中心にクラスルームイングリッシュに親しめる活動を仕組んでもらったのがよかった。

○２回の研修に指導主事を招聘し、新学習指導要領における外国語の授業の在り方について学ぶことができたことがよかった。

○公開授業では授業者以外の ALT の参加もあってよかった。

●単元の系統性について学べる機会があったらよかった。（小中連携も含めて）

●今年度は評価について学習できなかったので、来年度計画の中に取り入れてもよいのではないだろうか。